

平成23年度 赤穂市学校評価報告書

学校園名 赤穂市立尾崎小学校

1 本年度の学校経営方針

小学校学習指導要領完全実施に伴う授業時間数増加・外国語活動の新設等への対応や「いじめ」「不登校」「問題行動」等の様々な教育課題が山積する中、教育活動全体で児童に「生きる力」を育みこころ豊かな児童を育成することは、これまで以上に重要である。

そのため、「学校」、「家庭」、「地域社会」が、それぞれの役割を自覚しつつ、学びの共同体として、取組みを進めなければならない。

その中で、学校の役割は極めて大であり、学校としての情報発信すると同時に、保護者や地域に学校を開くことが必要である。言い換えれば、学校が『見える化』『聞こえる化』に取り組み、子どもの姿、教職員の姿、学校の姿を保護者や地域に明らかにすることこそが、保護者や地域社会の「信頼」を得ることにつながる。

学校は、日々一生懸命に子どもたちに「生きる力」を育成するために頑張っているが、保護者や地域社会に「見えていない」「聞こえていない」ことが「真の信頼」を得るところまで至っていない。そのため、学校は、子どもたちが「誇り」＝「自慢できること」をより多く実感させることが、「見える」「聞こえる」につながるものと確信する。

そのため、学校教育目標を『生きる力』を育み、『ほこり』を持てる子の育成と設定した。全教職員の共通理解を図り、子どもたちが自信と誇りを持ち、夢に向かって生きていきたいと実感できる魅力ある学校をめざしていきたい。

総合的な学校園関係者評価

- ・学校が地域との連携を深めようと努力していることはよく伝わっている。しかし、地域との連携のためには交流する機会が必要である。子どもたちとともに出来る事業の計画を望みたい。
- ・社会に出て有用な人間育成のために、「ならぬことは、ならぬ」という価値観と辛抱できる児童の育成を望む。
- ・学力の保障も重要であるが、最近の子どもたちの体力低下を懸念する。苦しいことに挑んでいくような、たくましい児童の育成に期待する。
- ・学校だよりを回覧する等、学校が積極的に情報を伝えようとしていることは評価する。
- ・子どもたちのあいさつの声が大きくなり、交通立番をしていて気持ちがよい。しかし、まだまだ、できていない子どももいるので継続した指導を望む。
- ・校長以下全教職員が明るく生き生きと仕事をしていることは、子どもを見ていたらわかる。さらに、活気ある職場づくりに努めてほしい。
- ・小学校は人生の基礎を養う場である。徹底的に厳しく指導してほしい。
- ・学校の安心安全のために地域でも、目に見えないところで活動している。学校としてもさらなる活動を期待したい。

2 本年度の学校(園)重点目標

- 1 確かな学力の定着と向上をめざす。(授業の改善と充実)
- 2 自尊感情を育み、望ましい人間関係を築く。(人権教育の充実)
- 3 教育専門職としての資質を高める。(研究・研修の充実)
- 4 効率的な学校運営をめざす。(勤務時間の適正化)
- 5 たくましい地域人を醸成する。(家庭・地域との連携)

3 自己評価結果 (A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (重点目標)	評価項目 (学校園・教師の取組) 評価指標 および 目標値(期待される姿)	評価資料	達成状況	改善の方策
授業の 改善と 充実	項目 基礎基本を明確にして授業を進めている。 指標 授業はわかりやすく、楽しい。	保護者・児童アンケート	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律の徹底 ・系統的、立体的かつ学年の接続を考えた教材研究 ・「問い」を持つ家庭学習、授業の構築 ・評価規準に準拠した、形成的な評価活動 ・「ほめて伸ばす」よいことは即時即効性、機会を逃さない ・総合的な学習の時間のカリキュラムを改善・深化させる ・朝読書をととした生徒指導の徹底 ・わかるまで徹底的に指導する ・生活の中で考えさせる、生活の中で働く知識・知恵の習得 ・学んだことを日々活用する
	項目 指導方法の工夫改善に努める。 指標 授業がよくわかる。	保護者・児童アンケート		
	項目 個に応じた指導を意識し、推進する。 指標 一人一人に合った指導をしているか。	自己評価 児童アンケート		
	項目 指導と評価の一体化に努める。 指標 明確な目標、多様な評価を行う。	自己評価 児童アンケート		
	項目 授業時数の確保に努める。 指標 カリキュラムに準拠して指導する。	自己評価		
	項目 実態に応じて工夫し、特色ある教育活動に努める。 指標 尾崎ならではの教育活動の展開。	自己評価 児童アンケート		
	項目 体験的、問題解決的な学習に取り組む。 指標 目的を明確にして効果的な活動を仕組む。	自己評価 児童アンケート		
	項目 課題教育の推進に努める。 指標 国際理解・環境・福祉・情報・健康教育	自己評価 児童アンケート		
	項目 朝読書の充実に努める。 指標 内容を豊かにする。	自己評価		

学校園関係者評価

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切でない ×:適切でない

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が楽しいと感じる根底には、授業が楽しい、わかる、出来るが増えることが重要である。児童の実態と身近な体験を取り入れて具体的で五感を使って体験的に学べるように授業改善を図っていく。 ・理解するのに時間がかかる児童には、個別にわかるまで指導していく。学年の接続を潤滑に行い、継続した指導を行う。 ・子どもの発する疑問を大切に授業を構築する。学びたいという意欲が沸くように、一人学びの方法を進化させ、主体的に学べるように授業方法を見直す。 ・時には、スパルタ教育も必要である。できるまで、わかるまで徹底的に指導する。

観 点	評 価 項 目 (学校園・教師の取組)		評価資料	達成状況	改善の方策
	評 価 指 標 (児童・生徒・園児の状態・行動)				
人権教育の充実	項目	全領域の中で推進する。	自己評価	A	<ul style="list-style-type: none"> 一人である子やいつもと様子が違う子を全教職員でチェックする 学級の気になる子どもについて月1回連絡会を持ち、共通理解のもと指導にあたる 困り感に寄り添い、その子に合った授業を行う 特別支援教育について保護者を啓発する
	指標	計画的に実施する。	児童アンケート		
	項目	生きる力を育むよう積極的に取り組む。	自己評価		
	指標	常に目をかけ、声をかける。	児童アンケート		
	項目	いじめや不登校問題を解決しようと努める。	自己評価		
	指標	日常の観察、研修の充実、感性を磨く	児童アンケート		
研究・研修の充実	項目	自分で課題意識を持って研修に取り組む。	自己評価	A	<ul style="list-style-type: none"> 「研修は自主性が命」自分にとって必要な研修に努める 教職員も体験的な学びをする。様々な体験を求めて生活する 忠臣蔵検定に全教職員が合格する 教育の時事問題について啓発する 子どもとともに体力づくりに努める
	指標	課題を明確にして、研究していることがある。	自己評価		
	項目	豊かな人間性の形成に努める。	自己評価		
	指標	休日には様々な活動に参加している。	自己評価		
	項目	日常的に体力向上に努める。	自己評価		
	指標	健康づくりに配慮している。	自己評価		
勤務時間の適正化	項目	ノー残業デー、ノー会議デーの実施に努める。	自己評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ノー残業デーの完全実施 校務用パソコンを積極的に利用し、学校校務データをより使いやすくする 校務の能率化に努め、廃止、精選を進め、授業や子どもとともにいる時間を確保する。 積極的にまわりの人と関わり、互いに手伝い合う環境づくりに努める
	指標	毎週木曜日に早く帰る。	自己評価		
	項目	効率的に仕事を進める。	自己評価		
	指標	時間を意識した仕事をする。	自己評価		
	項目	子どもと向き合う時間の確保に努める。	自己評価		
	指標	子どもとともに過ごす時間が多。	児童アンケート		
家庭・地域との連携	項目	学校での様子を伝えるよう努める。	保護者アンケート	B	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民から「尾崎小学校の先生」と認識されるよう、積極的にあいさつをする 気になることを翌日まで持ち越さない まめに連絡、まめに家庭訪問を行う 地域行事に尾崎小学校の住人として参加する
	指標	家庭への連絡を正確に適切にする。	保護者アンケート		
	項目	学年便りや家庭連絡等、相互理解を図る。	保護者アンケート		
	指標	定期的に発行する。保護者の願いを知る。	自己評価		
	項目	尾崎が大好きになる仕掛けをする。	自己評価		
	指標	授業の中に郷土の学習を仕組む。	自己評価		
家庭・地域との連携	項目	電話、来訪者に丁寧な接遇をする。	自己評価	外部評価	<ul style="list-style-type: none"> 「これぐらい」と思うようなことも家庭に伝え、共通認識を持つ。 電話や連絡帳に頼らず、まめに足を運ぶ。顔の見える指導者になる。 カリキュラム編成時に郷土学習を位置づける。史跡や商業施設に出かけて、体験的に学ばせる。 尾崎地区一斉清掃には職員も担当地区に参加する。子どもも保護者も教師も地域の中でともに汗を流す。 P T Aの活動が活性化し、全会員に見える活動となるよう協働していく。
	指標	明るく、さわやかな接遇をする。	自己評価		
	項目	保護者とともに熱意ある指導に努める。	自己評価		
	指標	P T A行事や地域行事に積極的に参加する。	自己評価		

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 職員室で放課後、学級の児童のことを話題とする。特によく頑張った児童については全教職員で称揚する。また、気になる児童については学校全体のこととして関わりを持つよう心がける。 いじめ問題が起こらないように、道徳の時間を中心として、いじめを許さない価値観を身につけさせる。 特別支援学級の児童の様子やがんばり等を保護者に情報提供し、正しく理解できるよう啓発する。 具体的で必ず分かる授業や指導をする。できるまでやりきる。
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 個人の研究課題を明確にして、年度当初に研究計画を作成する。その際、研究の具体的な内容を列記する。夏季休業中に全体研修を行い、研究の深化を確認する。年度末には研修のまとめをレポートとしてまとめる。自分の得意とする教科をつくっていく。 若い教職員の授業実践のため経験豊かな先輩教師が日常的に指導する。時には学年での教材研究を行い、実践力の向上に努める。 人間としての幅を広げるために、積極的に出かけ、様々な体験をとおして学び続ける。
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 毎週木曜日はノー残業デーという意識は出てきた。あとは完全実施に向けて隔週から取り組む。 校務を一人でせず、正副担当で協働する。多くの校務に精通できるよう取り組む。 会議の効率化はできた。提出物の点検など効率化を模索する。 学期に1回平日に年休が取れるよう配当する。 何でも話しやすい職員室経営に努める。 教職員の困り感に寄り添う。 業間、昼休みに運動場に出るよう心がける。
◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 「これぐらい」と思うようなことも家庭に伝え、共通認識を持つ。 電話や連絡帳に頼らず、まめに足を運ぶ。顔の見える指導者になる。 カリキュラム編成時に郷土学習を位置づける。史跡や商業施設に出かけて、体験的に学ばせる。 尾崎地区一斉清掃には職員も担当地区に参加する。子どもも保護者も教師も地域の中でともに汗を流す。 P T Aの活動が活性化し、全会員に見える活動となるよう協働していく。

自己評価における特記事項

<ul style="list-style-type: none"> 若い教職員が多く、打合せ等に時間を要する。効率的な仕事の工夫が必要である。 職員室で子どものことが話せ、学校全体での共通理解が進んだ。 明るく、働きやすい職場になってきている。
--

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

<ul style="list-style-type: none"> ノー残業デーの完全実施をめざす。
--